

「審議資料 2（再評価）」 修正概要一覧

整理番号	対象事業	頁	該当箇所	審議時の意見・質問（趣旨）	種別	修正概要
1	No. 1 県道46号相模原茅ヶ崎 (上郷立体) 道路改良事業	P2 P3	評価対象事業の位置づけ 標準横断図（一般部）	用地買収で苦勞しているというが、市街化調整区域の割に幅の広い4.5mの歩道を計画している。海老名市マスタープランでは、この沿道が市街化区域への検討の俎上に上がっており、そういったことも考慮していると思われるが、地域づくりと一体で道路の必要性を整理することが大事だと思うので、そのあたりの考えを聞きたい。	表記追記	海老名市マスタープランで『上郷地区（海老名駅西口地区の西側）は、市街化区域への編入の可能性を視野に入れた「土地利用を検討する区域」』とされており、当該記述を評価対象事業の位置づけに追記するとともに、現状においても駅が近く、自転車・歩行者が多いことから、道路構造令に則り、幅員を4.5mとした内訳を標準横断図の下に追記。
2		P4	事業の投資効果等 総合的な効果	避難を支援できるということで、期待しているが、被害想定はかなり誤差を含むので、どのくらい余裕があるのか、確認したい。	表記修正	高架部は、浸水面より約6m高い位置にあるものの、ご指摘のとおり、あくまでも逃げ遅れた場合の一時的な避難場所であり、海老名市地域防災計画においても位置づけが無いことから、特段の効果としては記載せずに一連の浸水時に係る記述を削除。
3			高架橋の上へ行くという避難計画は、河川洪水に対する標準的な避難にはならないと思う。あくまでも逃げ遅れた場合に、一時的に避難できるということだろう。			
4			浸水被害想定はかなり誤差を含むということもあるため、3次元の絵が大丈夫なのか気になる。			
5	No. 2 県道64号伊勢原津久井 (古在家バイパス) 道路改良事業	P7	事業の目的	溪流の上流側で工事が行われるが、その工事によって溪流の下流側におかしなことが起こらないようにしているか。	表記追加	「本バイパスは、土砂災害警戒区域等を避けるルートとし、地域の災害対応力の強化を図る。構造は、溪流を橋梁で跨ぎ、盛土構造はない。砂防指定地内では、許可を得て実施している。」を追記。 (あわせて、「縦断図」に土砂災害警戒区域(土石流)の沢を追記)
6				現道をもう少し歩行者が安全に通りやすくなるように変えないのか。	表記追加	「本バイパスにより、歩道を確保する。現道では、路側帯をカラー化済だが、交通転換の状況を勘案して、更なる安全対策について、現道移管を予定する清川村と検討していく。」を追記。
7	No. 3 都市計画道路横浜藤沢線（関谷工区） 街路整備事業	P11	事業の内容	側面図ではなく、横断図の標記が正しいのではないか。	表記修正	「側面図」を「横断図」に修正。
8		P13	事業の進捗の見込みの視点 事業の進捗状況	総事業費が増えたことは理解できるが、進捗率がマイナスとなるのは、おかしいのではないか。	表記修正	工事工程による進捗率などでは、表現が困難。したがって、前回の進捗率の分母（事業費）を、今回の事業費（29億円）に変更することで、「67%」を「47%」に修正。
9				事業費が増となった事由の、より詳しい説明が必要。	表記修正	「・地中に廃棄物の存在が判明したことから、その運搬・処分などの費用を追加・・・約3億円 ・当初想定より地盤支持力が低かったことから、地盤改良工を追加・・・約4億円 ・地元対策の追加工事、労務単価の上昇等・・・約2億円」に修正。

「審議資料4（事後評価）」 修正概要一覧

整理番号	対象事業	頁	該当箇所	審議時の意見・質問（趣旨）	種別	修正概要
10	No. 6 二級河川 境川（下流） 河川改修事業	P4	総合的な効果 ア）安全・安心	① 計画の対象規模と時間雨量50mmの関係が分からない。 ② 今回の整備により、住民の避難に要する負担がどのくらい軽減したのか分かりづらいので、具体的に示したほうがよい。	表記修正	① 計画規模が時間雨量50mmであることが分かるように修正。他箇所も統一で修正。 ② 今回の整備により、時間雨量50mmの降雨に対して想定される浸水区域が約352haから0haになり、住民の避難に要する負担も軽減できる旨の記載に修正。
11		P4	総合的な効果 ア）安全・安心	河川整備計画の目標である時間雨量60mmと今回の計画規模（時間雨量50mm）が異なることを分かるようにしたほうがよい。	表記追記	河川整備計画の目標降雨と今回の計画規模が異なる旨の文章を追記。
12		P4	① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	想定被害額を算出するための基礎データとなる資産の数量について、世帯数等が増加したタイミングはいつか。	表記追記	各資産の数量は、5年に1度実施している国勢調査メッシュ統計から算出しており、前回再評価時は平成22年度、今回は平成27年度の調査結果を用いているため、その間に増加した旨を追記。
13		P5	② 事業の効果の発現状況	令和元年東日本台風で約24cmの水位低減効果があったことについて、当時の雨が想定内の規模であった場合、24cmを強調するべきではなく、今回24cmの水位低減効果はあったが、今後計画規模を超える降雨に対してはどの程度の効果があるのか注視する必要があるという記載にしたほうがよい。	表記修正	水位低減効果の図において、「約24cmの水位低減効果」の記載の着色をなくす。 当時の雨は計画規模に満たない洪水であるが、24cmの水位低減効果があったことや、今後計画規模を超える降雨時に対しても、整備効果がどの程度になるか注視していく旨の文章に修正。
14		P5	対応方針（案）、考察	① 考察に記載の今後ハード・ソフト両面で取り組んでいく旨の記載は対応方針（案）に記載したほうがよい。 ② また、今後は、気候変動等に対して、これまでの整備水準では足りないという議論が発生すると思われるため、それらに対する検討が重要である旨を記載したほうがよい。	表記修正	考察に記載の右記箇所については、対応方針（案）に記載することとし、内容も気候変動の影響に対応するため、既に流域での取組に着手しているが、引き続き検討を行い、ハード・ソフト両面で取り組んでいく旨の記載に修正。
15	No. 7 稲村ガ崎 3丁目地区 急傾斜地 崩壊対策事業	P6	概要	事業区域内に指定されている土砂災害特別警戒区域について、事業を実施しても指定されたままとなるのか、それとも調査のタイミングにより指定されたままとなっているのか教えていただきたい。	表記修正	本事業により対策施設が設置された範囲は、土砂災害警戒区域等に指定されていない旨、表現を修正。
16		P8	本事業により得られたレッスン	景観に配慮した取組みを全県で行っているとの説明では、審議資料の記載内容と合わないため、正しく修正していただきたい。	表記追記	景観に配慮した取組みについて、県内での取組状況がわかるような表現を追記。
17				法枠工を植生で隠す意図は無いとの説明では、審議資料の記載内容と合わないため、正しく修正していただきたい。		法枠が植物に隠れることで周辺と調和したとの記載内容が誤解を招くため、表現を修正し追記。
18	No. 9 真鶴港 港湾改修事業	P13	4. 事業の内容	指摘なし。	表記修正	形状・寸法の内の高さの記載を適切な表記に修正。
19		P13	5. 事業実施にあたって配慮した項目	本小松石を使用した上部工について、港から肉眼で確認しづらく、景観への効果が低いと思われる。	表記修正	表現を修正。
20	No. 10 山北つぶらの公園 都市公園整備事業	P18	②事業の効果の発現状況	事業効果が発現していることがわかるエビデンスを追加した方がよい。	表記追記	利用者アンケートを実施し、公園の満足度等を追記。
21		P18	考察「今後の取り組み」	来年度から導入する指定管理者制度について、事業者の選定の際に、地域産業等の地域とのつながりを配慮しているのであれば、このことを記載した方がよい。	表記修正	今後の取り組みの中で、指定管理者とともに、地域産業等の地域とのつながりに積極的に取り組んでいくことを記載。

「審議資料6（再評価）」 修正概要一覧（茅ヶ崎市）

整理番号	対象事業	頁	該当箇所	審議時の意見・質問（趣旨）	種別	修正概要
22	No. 11 浜見平地区 住宅市街地 総合整備事業 (茅ヶ崎市事業)	P2	① 1. 概要 2) 評価対象事業の概要 ア) 整備地区の概要 ② 事業地周辺図	浜見平地区の中心地は沿道型の計画としているが、平面プランでは、駅からこの地区への交通の軸線が見えにくい。	表記追記	①概要の本文にアクセス手段を追記。 ②事業地周辺図内に、駅からの主要なアクセス手段であるバスルートを追記。
23		P3	5. 事業実施に当たって配慮した項目 2) 災害対策	松尾川を暗渠としたうえで緑化しているが、暗渠とする以外に方法はなかったか。	表記追記	事業地周辺から事業地内への避難動線を確保するため暗渠化した旨を追記。
24		P5	(2)事業の進捗の見込みの視点 ②これまでの課題に対する取り組み状況	総合的な効果として人口流入による効果が期待できるため、新旧の人たちが融合したまちづくりの観点が追加できるとよい。	表記追記	従前居住者と新規居住者の関わり方等について、重要視している旨を追記。